

千葉県 NEWS

CHIBA CANCER CENTER NEWS

がんセンターニュース



第28号
平成26年11月7日発行
発行:千葉県がんセンター

理念

心と体にやさしく、希望の持てるがん医療

私たちは、一人でも多くの千葉県民に、
質の高いがん治療を提供します。

患者さんの側に立って思いやることの大切さ

副病院長 山口 武人



最近、私の兄弟や親せきが高齢化し、様々な病気を抱えるようになってきました。親族では医療関係者が私1人ということもあり、病気の相談に乗る機会も増えました。また、少し重い病気で入院する親族もあり、付き添いや病院に見舞うこともしばしばとなりました。

つい先日、もうすぐ96歳となる母親が原因不明の高熱を発し、東京の実家の近所にある総合病院に緊急入院しました。翌日、病院に様子を見に行きましたが、幸い命に別状はなさそうでしたので一安心しました。超高齢なのでたとえ何があっても寿命だとは思いますが、いくつになってももう少し長生きしてもらいたいと思う子供心は変わりません。このように、自分自身が患者の側に立ってみると、日ごろ医療者の立場にある様々なものが全く異なって見えてきます。看護師さんや医師の立ち居振る舞いや言葉づかい、態度など一挙手一投足が非常に敏感に感じられます。母が緊急入院した病院で病状説明を聞いたとき、主治医は最初から最後まで家族の方は向かず、電子カルテの画面を見続けながらとても無愛想な態度で説明しました。また、病棟の看護師は回診の時、耳の遠い母に対し「ばあちゃん、ばあちゃん」と何度も声をかけ、また幼児に話しかけるようにしていました。「君のばあちゃんではない、名前と呼べ！尊厳をもった対応をしろ！」と口に出かかりましたが、ぐっと堪えました。

このような体験で改めて感じたことは、病院の中で患者はとても弱い立場にあるということです。病気を持った者、弱った体の患者は医療者にすべてを委ねるしかありません。その中で医師や看護師の思いやりのある態度がとてもありがたく感じられます。逆に思いやりが欠けた言葉や振る舞いは非常につらく、時には怒りすら覚えることもあるかもしれません。医療トラブルの原因は医療者と患者側のコミュニケーション不足にあるとよく言われますが、その大きな原因の一つは医療者の思いやりの不足にあるということが実感された次第です。たしかに、一部の患者さんは医療者に対し、敵意や非常に傲慢な態度を示すこともあり、対応が難しいこともあります。また、忙しい日常業務の中で、聖人君子ではない我々は思いやりについ欠けることもあるかもしれません。しかし、患者側の立場になってみると、患者さんは医師や看護師さんの思いやりを強く求めていることがわかります。

英語の Sympathy は私の好きな単語の一つで、日本語では「同情」と訳されることが多いのですが、この訳は医療の現場ではあまり適切ではないように思われます。Sym は「同時に、ともに」、pathy は「気持ち、感情」であり、相手と気持ちを同じにする、同じ立場になって感じるという方がよりしっくりします。上からの目線で患者さんに情けをかける、同情するのではなく、Sympathy を持って医療を行うことの大切さを改めて、身に浸みて思い知らされました。

臨床の現場から

緩和ケアセンターの開設に寄せて

緩和ケアセンター長 藤里 正視

「緩和ケア」ってどんなイメージですか？「もう助からない人にする」「始めたならもう最後」「痛みをとるだけでほかの治療はしない」などなど・・・医療関係者の中にもこうした誤ったイメージをお持ちの方が少ないかもしれません。確かに終末期のケアも痛みをとることも緩和ケアの大切な仕事のひとつです。しかし、がん患者さんの「苦痛」はそれだけではありません。体の痛みだけでなく、吐き気や息苦しさなどの症状であったり、病気や生活に対する不安で眠れなくなったり、仕事や治療にかかるお金はどうする？など、様々な苦痛を抱えていることが少なくありません。しかもそうした苦痛は終末期よりずっと以前、場合によってはがんと診断されたそのときから患者さんを苦しめていることすらあるのです。また一方で近年、医療の進歩によって、がんと診断され、治療を開始してから5年後に生存している人の割合は6割を超えると報告されています。喜ばしいことではありますが、がんの治療をしながら、時として様々な苦痛を抱えながら生活をしている患者さんたちが増えているということでもあります。こうした苦痛はガマン

しなくてはいけないのでしょうか？昔は手術をすると痛いのが当たり前で、ガマンするしかなかった時代がありました。現在では麻酔の進歩により、術後もかなり楽に過ごせるようになってきました。

緩和ケアもそれと同じなのです。

がんを治療中であってもよりよく生活していくため、残念ながらがんが克服できない状況になっても残された時間をよりよく「生きる」ため、ガマンしなくても良いのです。

もちろん、私たちだけでは解決できない問題も多くあるとは思いますが、一緒に考え、支えられることもまた多いと思っています。

「がん患者さんのすべての苦痛を緩和し、よりよく生きるお手伝いをする」それが私たち「緩和ケアセンター」の目標です。



第3回 臨床研究総合センターのシンポジウム開催のお知らせ

千葉県がんセンター臨床研究総合センター主催の「平成26年度 臨床研究総合センターシンポジウム」が下記の通り開催されますのでお知らせいたします。

本年度のテーマは「臨床と研究の接点：トランスレーショナルリサーチの推進を目指して」とし、臨床研究推進に向けた内容を企画しています。院外からの講師として群馬大学大学院病態腫瘍薬理学、西山正彦教授、および国立がん研究センター通院治療センター、田村研治センター長のお二人にご講演を頂く予定です。また、今回は研究所から「基礎医学研究からベッドサイドへ」、臨床から「個別化器量への臨床実践」のテーマで、それぞれ2人ずつの先生に発表していただくこととしております。

言うまでもなく、これからのがん医療は基礎研究、特に分子生物学の成果をいかに臨床応用するかが極めて重要な時代となってきております。千葉県がんセンターは基礎と臨床に多くの優秀な先生がおり、それぞれに高い成果を上げています。本シンポジウムではお互いの成果に基づき、それらを融合して今後さらに質の高いトランスレーショナルリサーチをどのように推進するかをディスカッションできればと考えております。

実りあるシンポジウムとなりますよう、多くのご参加と活発な議論をぜひともお願い申し上げます。

記

テーマ：「臨床と研究の接点：トランスレーショナルリサーチの推進を目指して」

日時：平成26年12月13日（土）13：00～18：00

場所：千葉県がんセンター 事務研修棟大会議室

定員：150名（入場無料・申込不要）



地域医療連携室だより



呼吸器内科に部長就任！

ごあいさつ

「お気軽にご相談ください」

呼吸器内科部長 関根 郁夫

平

平成26年7月に呼吸器内科部長として千葉県がんセンターに就任いたしました。私は大学卒業後に一般呼吸器内科医としてキャリアを開始しましたが、その後国立がんセンター東病院に5年間、国立がんセンター中央病院に14年間、千葉大学医学部付属病院臨床腫瘍部に3年間、呼吸器悪性腫瘍の内科診療を中心に従事してきました。その経験を生かして、当センターにおける進行肺癌の診療を充実させたいと思っております。

肺という臓器は、外界の空気と体内の全ての血液が出会う場所です。従って、肺は常に気道と循環の両方からやってくる様々な病原因子に曝露されますので、腫瘍以外にも感染症、アレルギー疾患、肺循環の病気など多彩な病気が生じます。その鑑別診断をするのが呼吸器内科医の第一の仕事です。幸い当センターにはPET/CTなどの最新の医療機器がありますし、経験豊かな画像診断、

核医学診断、気管支鏡診断、病理診断の専門家が多数おりますので、みんなで協力をしながら確実な診断を心がけていきます。

私は今まで局所進行肺癌に対する化学放射線療法の開発を中心に仕事をしてきました。局所進行肺癌といっても病状は決して単純ではなく、手術を中心とした治療法、放射線療法を中心とした治療法、化学療法を中心とした治療法など、患者さんの状態に応じてさまざまな治療法を選択する必要があります。当センターは呼吸器外科・内科、放射線治療科と各領域の専門家が充実しており、多彩な角度から治療法を検討できます。

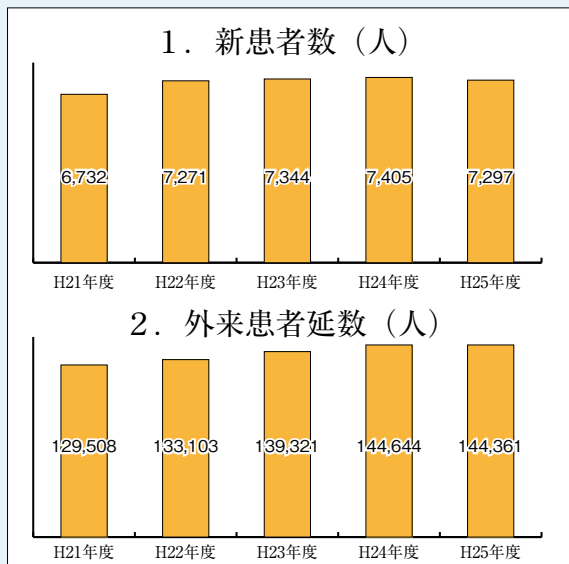
肺癌は早期に発見することが難しく、骨転移や脳転移を伴った状態で見つかることもしばしばあります。当センターでは、必要に応じて整形外科、脳外科、緩和医療科など他の診療科とも密接に協力しながら、最適な治療法を模索していきます。肺癌に対する治療薬は日進月歩の分野です。今年に入ってから新たに分子標的薬が2つ認可され、さらに新しい薬剤も開発中です。これらの薬剤は従来の抗がん剤とは違って脱毛などはなく、患者さんの生活の質（quality of life）を保ちながら療養することが可能です。予後が厳しい場合もありますが、頑張りたいという患者さんの気持ちに寄り添いながら、今から何ができるのかを一緒に考えていきたいと思っております。

どうぞお気軽にご相談ください。

診療実績

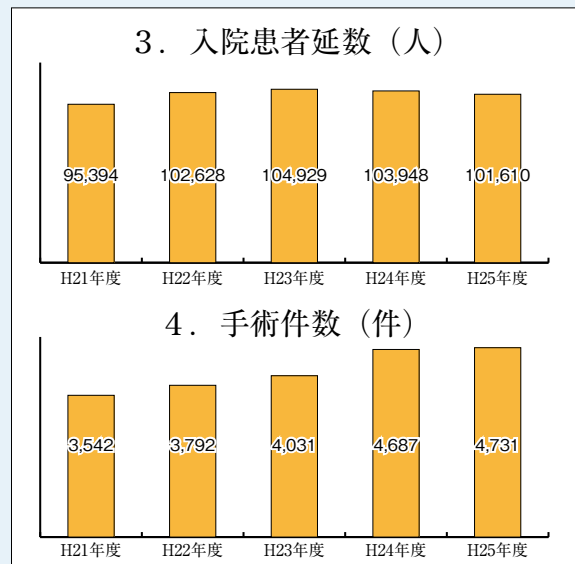
患者数の動向

診療情報管理室



平

平成25年度の新患者数は前年に比べて108人減っています。それに伴い、外来患者延数、入院患者延数も減少しています。しかし、手術件数は前年に比べて44件増えています。



初診担当医表

2014年10月1日現在

【予約受付時間】

月曜日～金曜日(祝祭日、年末年始を除く)

9時～17時

診療科	月	火	水	木	金
消化器外科	池田 篤 外岡 亨 有光 秀仁	山本 宏 鍋谷 圭宏 早田 浩明 外岡 亨	滝口 伸浩 池田 篤 貝沼 修 柳橋 浩男	永田 松夫 鍋谷 圭宏 滝口 伸浩	山本 宏 貝沼 修 早田 浩明 齋藤 洋茂
消化器内科	山口 武人 傳田 忠道 廣中 秀一 鈴木 拓人	傳田 忠道 原 太郎 須藤研太郎	山口 武人 傳田 忠道 廣中 秀一 中村 和貴	傳田 忠道 原 太郎 廣中 秀一	中村 和貴 須藤研太郎 相馬 寧 三梨 桂子
呼吸器外科	飯笹 俊彦		飯笹 俊彦		飯笹 俊彦
呼吸器内科	関根 郁夫 芦沼 宏典	板倉 明司 新行内 雅斗 芦沼 宏典	関根 郁夫 吉田 泰司	板倉 明司 新行内 雅斗 吉田 泰司	芦沼 宏典
乳腺外科	山本 尚人 所 為然	大久保嘉之	中村 力也 所 為然	大久保嘉之	中村 力也 所 為然
形成外科				秋田 新介 徳元 秀樹	
婦人科	(担当医)	田中 尚武	(担当医)	田中 尚武	(担当医)
泌尿器科	小丸 淳 佐藤 陽介	植田 健 佐藤 陽介		小林 将行	深沢 賢 梨井 隼菱
腫瘍血液内科	熊谷 匡也 伊勢美樹子	辻村 秀樹 菅原 武明 山田 修平	熊谷 匡也 菅原 武明	熊谷 匡也 伊勢美樹子	熊谷 匡也 辻村 秀樹
脳神経外科	井内 俊彦	(担当医)	井内 俊彦 堺田 司	(担当医)	堺田 司
頭頸科	佐々木慶太 佐々原 剛 櫻井 利興	佐々木慶太 佐々原 剛 櫻井 利興		佐々木慶太 佐々原 剛 櫻井 利興	
整形外科	石井 猛 米本 司	石井 猛 岩田慎太郎		石井 猛	米本 司 岩田慎太郎 鴨田 博人
緩和医療科	渡邊 敏	渡邊 敏		渡邊 敏	渡邊 敏
精神腫瘍科	秋月 伸哉	秋月 伸哉		秋月 伸哉	秋月 伸哉
核医学診療部		戸川 貴史	久山 順平	久山 順平	戸川 貴史

【診療予約のご案内】

予約電話 043-264-5431 (代表番号)

地域医療連携室 予約担当

*当センターは予約制となっております。受診される場合は、電話で予約をおとり下さい。

*初めて受診なさる場合は、かかりつけ医など医療機関からの紹介状をお持ち下さい。

リレー・フォー・ライフジャパン2014ちばの報告

平成26年9月20日(土)正午から9月21日(日)正午まで、八千代総合運動公園内多目的広場で、「リレー・フォー・ライフジャパン2014ちば」が開催されました。

この催しは、がん患者のみなさんとその家族、支援者などが「がんに負けない社会づくり」を目指して地域社会と共に闘うチャリティイベントです。会場では、参加チームによる展示や関連グッズ等の販売の他に、コンサートや講演も行われました。

がんセンターチームは今年で5回目の参加となりますが、総勢59名にご協力いただき、夜通し交代しながら1135周を歩きました。

心配された天気ですが、1日目は小雨が降ったものの、雨上がりの空に虹を見ることができました。そして翌日、すがすがしい秋晴れのもとフィナーレを迎えました。

今回、様々な立場の方々と交流することにより貴重な経験ができました。ご協力いただいた皆様、本当にお疲れ様でした。



平成26年度 がん予防展の報告

平成26年9月13日(土)と14日(日)午前10時から午後5時まで、イオンモール幕張新都心のファミリーモール1階通路と2階ファミリーラウンジで、県と(公財)ちば県民保健予防財団、県がんセンター主催によるがん予防展を開催しました。

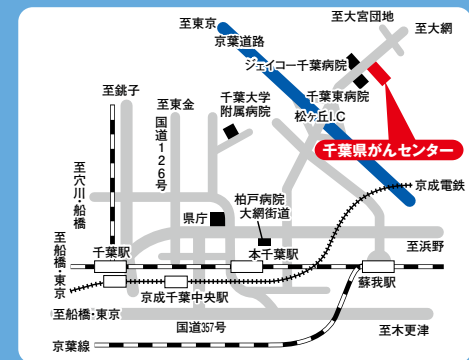
今年度のブースの中からいくつかをご紹介します。乳がん模型を用いた「乳がん触診体験」、2日目は、乳がん無料検診も実施しました。その他に「顕微鏡で見たがん細胞」、胃がん模型を用いた「内視鏡の操作体験」、「喫煙度チェック」、「血管・肺年齢測定」、「食生活相談～野菜を350gはかろう～」、「がん相談コーナー」、それに加えて14日は、がん患者さんや高齢の方にも食事を楽しんでいただけるよう考案された「ケアフード」の試食会を開催しました。

両日とも良い天気となり、終日多くの家族連れなどで賑わっていました。2日間という短い期間の開催でしたが、がんの予防や早期発見の重要性について認識を深めていただくことができたと思います。



ご案内の交通

- JR千葉駅から** 所要時間:約25分
 千葉中央バス: 菅田駅、鎌取駅、千葉リハビリセンター、大宮団地(星久喜経由)行乗車・千葉県がんセンター前下車
- JR鎌取駅から** 所要時間:約13分
 千葉中央バス: 千葉駅・蘇我駅行乗車・千葉県がんセンター前下車
- JR蘇我駅から** 所要時間:約16分
 千葉中央バス: 鎌取駅行乗車・千葉県がんセンター前下車
- 松ヶ丘I.Cから**
 大網街道を大網へ向かって約2km右側



千葉県がんセンター
 〒260-8717 千葉市中央区仁戸名町666-2
 TEL.043-264-5431 FAX.043-262-8680
<http://www.chiba-cc.jp/>